

令和元年 11月27日
京都市立桃陽総合支援学校
校長 芝山 泰介

令和元年度学校評価中間アンケート結果のご報告

令和元年度学校評価に係る中間アンケートにご協力いただきありがとうございました。

児童生徒や保護者の皆様、学校関係者の皆様から頂きましたアンケート結果から、桃陽総合支援学校の教育活動について、分析・考察を行い第2回学校運営協議会で報告いたしました。

皆様からいただきました貴重なご意見を参考に、さらなる教育活動の実現に向けて取り組んでいきたいと思ひます。

本誌面ではアンケート結果から、いくつかの項目を取り上げてご報告いたします。

【学習について】

「勉強はよくわかる」の項目のアンケートでは、小学生89%、中学生74%が肯定的な回答を得られました。中学部に入ると肯定的な回答が低くなるのは、学習空白のある生徒がいたり、学習の内容も難しくなったりすることが要因の一つとして考えられます。

「ICT機器を導入して学習を進めることでわかりやすい」という項目では、小学部は100%、中学部では90%の肯定的な意見が得られました。長年、ICT機器を活用して学習を行っている当校ですが、今年度は特に分教室の児童生徒に対して、子どもの体調に合わせて、常時タブレットでつなげる取組を行っております。どうしても孤独になりがちな入院生活において、教室とつながることで友達と関わる事ができています。

【自己肯定感について】

「自分にはよいところがある」の項目について肯定的な意見がそれぞれ小学部の児童は83%、中学部の生徒は63%でした。

教職員の「子どもの良いところを見つけほめる。」の実現度が96%と子どもたちの自己肯定感を高めることを意識している結果となりました。「ほめる」以外にもどのような活動が自己肯定感を高めることができるのかを検討し、取組を進めていきたいと考えています。

「私の悩みや困りごとを聞いてくれる人がいる」という項目では、小学部は100%、中学部は84%と肯定的な回答がありました。

教職員の「子どもの相談に適切に応じる。」の項目の実現度が93%あり、引き続き子どもたちの声に耳を傾けて、子どもたちを理解

して、自己評価が低くなる要因を探り、どのような活動が自己肯定感を高めることにつながるのか検討し、相談しやすい体制づくりを目指していきたいと考えています。

【コミュニケーションについて】

「相手の気持ちを考えて行動している」の項目ですが、肯定的な意見が小学部は74%、中学部は79%でした。この項目に関しては小学部と中学部であまり変わらない結果となりました。

教職員のアンケートの「子どもが相手を意識して聞いたり話したりできるように指導する。」の実現度も86%で引き続き、人とのやりとりについてモデルを示し、実践する中で児童生徒が自己発信し、受け止められる場の設定をしていきたいと思ひます。

「私は自分から進んで挨拶をしている」は小学部で56%、中学部で58%でした。学校関係者から「来校したとき、児童生徒は挨拶をする」の項目では55%と低い値となっております。また教職員の「児童生徒がすすんであいさつできるように指導する。」という項目では実現度が76%と他の項目に比べ低い値となっています。自分の思いや考えを表現することに苦手意識を持つ児童生徒も多いので、教職員が率先して挨拶をしてモデルを示し、丁寧な指導をしていきたいと考えています。

アンケートや学校運営協議会でいただいたご意見など、今後も保護者、学校関係者のご協力をいただきながら教育活動全体に活かしていきたいと思ひます。

